

注意すべき生物



4.1 注意すべき生物とは

安曇野市の自然環境は、長い期間をかけて形成されてきました。現在の安曇野市の自然環境が 形成される過程では、地域外に生育・生息していた生物の分布拡大は当然あったことでしょう。 しかし、それらは人間活動にはよらない、気候や気象、地殻変動などの自然現象や生物自体の活動に基づいており、その結果として安曇野市の自然環境は絶妙なバランスを保ちながら形成されてきたと考えられます。

こうして形成された自然環境に、人の活動によって域外から生物が持ち込まれると、自然環境だけでなく、人間の身体や財産、農林水産業などにも大きな影響を及ぼす場合があります。また、もともと域内に生息・生育していた生物でも、周辺環境の変化などを通じて爆発的に増えると自然環境等に大きな影響を及ぼすようになる場合もあります。

そこで本書では、次の掲載基準を設けて、安曇野市の自然環境に大きな影響を及ぼす可能性がある生物を取り上げます。このように、本書で取り上げる「注意すべき生物」とは、安曇野市の自然環境にとって注意すべき生物という意味で、その生物自体に何か問題があるということではありません。

【注意すべき生物の掲載基準】

安曇野市における絶滅のおそれのある野生生物についての基礎資料であるという本書の趣旨を 考慮して、次のように注意すべき生物の掲載基準を設けました。また、掲載に際しては「生態系 被害防止外来種リスト」(環境省・農林水産省)などを参考にしました。

安曇野市の自然環境 (特にレッドリスト掲載種) に対して次の A ~ C の影響のある生物種 (在来種、外来種を含む) のうち、特に本書で取り上げて注意したいもの

主要な影響として考慮するもの

A 生態系への影響が大きい、または今後懸念される

例:在来生物を捕食する、在来種と競合する(在来種の生息・生育環境を奪ったり、餌の 奪い合いをしたりする)、交雑による遺伝的かく乱がある(近縁の在来種と交雑して雑 種を作る)、在来種に影響の大きい病原菌・寄生生物等を媒介する、在来種の生息・生 育環境を大きく改変するなど

副次的な影響として考慮するもの

B 人の生命・身体への影響が大きい、または今後懸念される

例:有毒である、人の感染症を媒介する、人を噛んだり刺したりするなど

C 農林水産業への影響が大きい、または今後懸念される

例:農作物・水産物等を食べる、農地等を踏み荒らす、樹木を枯らすなど

外来種

外来種とは、本来は対象となる地域に生息しておらず、人間の活動によって他地域から入って きた生物のことを指します。このため、渡り鳥や海流にのって移動してくる魚や植物の種子などは、 自然の力で移動するもので外来種には当たらないとされています。

外来種は、人間活動によって海外から持ち込まれた生物(国外由来の外来種)と、日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた生物(国内由来の外来種)に分けて考えられています。これらの生物は、本来の生息・生育地ではごく普通の生物として自然環境になじんでいた生物です。これらが、環境の異なる地域に持ち込まれると、偶然に移入先の自然環境に大きな影響を引き起こしてしまうことがあります。

外来種のうち特定外来生物※は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (外来生物法)」で取り扱いが厳しく定められています。

また、外来種対策の一層の進展を図ることを目的として、生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種を幅広く選定した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(生態系被害防止外来種リスト)が環境省と農林水産省によって2015年3月に公表されています。生態系被害防止外来種リストでは、対策の検討・実施に当たって参考となるよう、掲載種にカテゴリーの区分がなされています(図 4-1)。

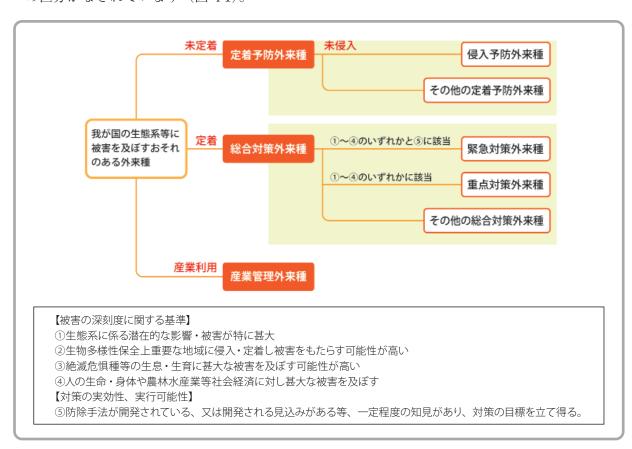


図 4-1 生態系被害防止外来種リストのカテゴリー概要

(農林水産省ホームページを参考に作成)

※特定外来生物

特定外来生物とは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」で指定されている外来種です。生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものとして、国外起源の種から指定されています。原則として、生体の輸入、放出、飼養等、譲渡等が原則として禁止されています。ただし、アカミミガメとアメリカザリガニは「条件付特定外来生物」に指定されており、家庭等での飼育や捕獲は認められています。ただしこの場合も野に放つことは違法です。

4.2 注意すべき生物

(1) 注意すべき生物の現状

安曇野市に生息・生育している野生生物のうち、安曇野市の自然環境に影響を与える可能性がある生物(注意すべき生物)として、植物22種、動物38種を掲載しました。

改訂作業では、外来生物法の改正や位置付けの見直しなども反映してリストを整理しました。

情報収集を進めるなかで、特定外来生物のアライグマや外来アゾラ類、アカボシゴマダラの生息・ 生育が確認されています。近年、市内で分布が広がっているオオハンゴンソウも追加記載しました。 また、現在はまだ生息していないものの、今後、市内に進入してくる可能性があるセアカゴケ

今回の改訂による掲載種の概要は、植物について163ページ、動物について168ページに示し、 それぞれ新規に追加された種の説明を掲載しています。新規追加種以外の種の説明は『安曇野市 版レッドデータブック2014』をご覧ください。

グモ、クビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリもリストに加えています。

表 4-1 注意すべき生物

	分類群	在来種	外来種 ※()内は特定外	ł·来生物	合計
	77 A. F.		生態系被害防止外来種	その他	451
植!	物	0	18 (6)	4 (0)	22
動:	物	8	22 (13)	8 (1)	38
	哺乳類	2	2 (1)	0 (0)	4
	鳥類	0	2 (2)	1 (0)	3
	爬虫類	0	1 (1)	0 (0)	1
	両生類	0	1 (1)	0 (0)	1
	魚類	0	7 (3)	0 (0)	7
	昆虫類	6	4 (2)	4 (1)	14
	その他無脊椎動物	0	5 (3)	3 (0)	8
	合計	8	40 (19)	12 (1)	60

(2) 注意すべき生物リスト

1 植物

T) A	4.0	± ±1£	特定	生態系被害防止	4C+B, 0+0	掲載ページ	
科名	種名	在来種	外来生物	外来種	新規追加	2014	2024
アカウキクサ	外来アゾラ類		•	緊急対策	•		164
タデ	エゾノギシギシ			その他の総合対策		359	
ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ					359	
ヒユ	ホソアオゲイトウ					360	
マメ	ハリエンジュ			産業管理		360	
	イタチハギ			重点対策	•		164
	ナヨクサフジ			産業管理	•		164
ニガキ	ニワウルシ (シンジュ)			重点対策		360	
ウリ	アレチウリ		•	緊急対策		361	
ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ					361	
	オオカワヂシャ		•	緊急対策		361	
キク	オオブタクサ			重点対策		362	
	オオキンケイギク		•	緊急対策		362	
	オオハンゴンソウ		•	緊急対策	•		165
	セイタカアワダチソウ			重点対策		363	
	外来性タンポポ種群*1			重点対策		363	
イネ	カモガヤ			産業管理		363	
	シナダレスズメガヤ			重点対策	•		165
	オニウシノケグサ			その他の総合対策	•		165
アカネ	シラホシムグラ				•		166
サボテン	ハイウチワ			重点対策 **2	•		166
トチカガミ	コカナダモ		•	重点対策	•		166

^{※12014}年版ではセイヨウタンポポとして記載

^{※2} ウチワサボテン属として選定

2 動物

■哺乳類

科名	種名	在来種	特定 生態系被害防止 外来生物 外来種	☆£±目: 色 カロ	掲載ページ		
	作里4日	1工不住		机死延加	2014	2024	
アライグマ	アライグマ		•	緊急対策		366	
ジャコウネコ	ハクビシン			重点対策		366	
イノシシ	イノシシ	•				366	
シカ	ニホンジカ	•				367	

■鳥類

科名	種名	在来種	特定	生態系被害防止	新規追加	掲載~	ページ
174-12	俚名	11不住	外来生物	外来種	机机坦加	2014	2024
ナンベイウズラ	コリンウズラ					367	
チメドリ	ガビチョウ		•	重点対策		367	
	ソウシチョウ		•	重点対策		368	

■爬虫類

科名	種名	在来種	特定 外来生物	生態系被害防止 外来種	新規追加	掲載/ 2014	ページ 2024
ヌマガメ	アカミミガメ		•*	緊急対策	•		169

[※]条件付き特定外来生物

■両生類

科名	種名	在来種	特定	生態系被害防止	新規追加	掲載~	ページ
1711	1至14	江小江	外来生物	外来種	利の記述が	2014	2024
アカガエル	ウシガエル		•	重点対策		368	

■魚類

科名	 種名	在来種	特定	生態系被害防止	新規追加	掲載~	
174	(性)			外来種	机况坦加	2014	2024
ドジョウ	カラドジョウ			その他の総合対策	•		169
サケ	ブラウントラウト			産業管理		368	
	カワマス			その他の総合対策		369	
	ニジマス			産業管理		369	
サンフィッシュ	ブルーギル		•	重点対策		369	
	オオクチバス		•	重点対策		370	
	コクチバス		•	重点対策		370	

■昆虫

IN &	任力	左 束廷	特定	生態系被害防止	新規追加	掲載ページ	
科名	種名	在来種	外来生物	外来種	新 規 追加	2014	2024
コオロギ	アオマツムシ				•		169
ナナフシ	ナナフシモドキ	•			•		170
サシガメ	ヨコヅナサシガメ					370	
クワガタムシ	オオクワガタ (本土亜種を除く国外産)			その他の定着予防		371	
	ヒラタクワガタ (本土亜種を除く国内 の別地域と国外産)			その他の定着予防		371	
タマムシ	ヤノナミガタチビタマムシ	•				371	
カミキリムシ	ビャクシンカミキリ	•				372	
	スギカミキリ	•				372	
	マツノマダラカミキリ	•				372	
	クビアカツヤカミキリ		•	その他の総合対策	•		170
	ツヤハダゴマダラカミ キリ		•		•		170
ナガキクイムシ	カシノナガキクイムシ	•				373	
ミツバチ	タイワンタケクマバチ				•		171
タテハチョウ	アカボシゴマダラ		•	重点対策	•		171

■その他無脊椎動物

科名	種名	左立種	在来種			掲載~	ページ	
17-0	俚石	外来生物 外来生物		外来種	新規追加	2014	2024	
ヒメグモ	セアカゴケグモ		•	重点対策	•		171	
ザリガニ	ウチダザリガニ		•	重点対策		374		
アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		•*	重点対策		374		
ヌマエビ	シナヌマエビ				•		172	
マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ			その他の総合対策		373		
ミズツボ	コモチカワツボ			その他の総合対策		373		
サンカクアタマウ ズムシ	アメリカツノウズムシ				•		172	
	アメリカナミウズムシ				•		172	

[※]条件付き特定外来生物

□ラム 5 【動植物の移入に伴って侵入してくる外来生物】

本書には生息環境の変化や気候変動などで減少の顕著な種がリストアップされていますが、他 方、外来種や南方種の進出は顕著で、毎年のように新顔が発見されています。最近の傾向として、 外来種や園芸の植物、輸入品に紛れてこの地に侵入し、その後定着する種も見られます。ここに 代表的なものを紹介します。

● タイワンタケクマバチ

2006年、愛知県で発見されたのを皮切りに関東か ら中部地方へと生息域を広げている大型のハナバチ。 もともとは中国南部からインドにかけて分布する種です が、中国から輸入される竹製品に紛れて侵入したと見 られています。松本市で2011年に発見され、安曇野 市でも2022年に長峰山で確認されました。公園や民 家の竹垣などで発生していると見られ、在来のクマバ チとの競合などが懸念されています。



●アメリカピンクノメイガ

北米を中心に分布する 15mm ほどの蛾で、幼虫は サルビア類を食草としています。2019年に岐阜県で発 見されて以降、関東から近畿にかけて広い範囲で発見 されています。安曇野市でも 2022 年に明南小学校で 発見され 2023 年には堀金でも見つかっています。発 生場所は学校や公園の花壇です。幼虫がサルビア類を 食草としているため、卵や幼虫が付いた苗の流通によ り拡散されていると考えられます。寒さの厳しい安曇野 で越冬できるのかは分かっていません。



■ プラタナスグンバイ

北米原産の体長4~5mm ほどのグンバイムシで す。2001年に国内で発見、長野県でも2008年に発 見されて以降、奇主植物のプラタナスを足掛かりに生 息域が広がっています。安曇野市でも小中学校の校 庭に植えられたプラタナスで発見されています。寄生 された葉は吸汁されて黄白色に変色します。写真は 三郷中学校校庭のプラタナスの樹皮下で集団越冬して いるところです。ちなみに種名のグンバイは戦国武将 や相撲の行司が持つ「軍配団扇」に因んでいます。



(那須野 雅好)

(3) 改定内容と追加種の解説

1 植物

■ 注意すべき生物(植物)の概要

新しく注意すべき種として掲載する植物は9種、除外した種は2種でした。全体では22種になりました。表4-2に種数・概要を示します。

『安曇野市版レッドデータブック 2014』刊行以降に、河川敷への外来植物の進入や特定外来生物のオオハンゴンソウの分布拡大が見られています。改訂作業では、市内に生育し、「生態系被害防止外来種リスト」に指定されている種類などを追加記載しました。

分類群	種	数	概要
刀双印	2014	2024	1% 🗴
植物	15	22	 追加した植物は、すべて国外から持ち込まれた外来生物です。そのうち「生態系被害防止外来種リスト」に掲載されているのは8種、特定外来生物に指定されているのはオオハンゴンソウなど3種になります。 2014年版に引き続き、山麓部・平野部の農地や住宅地、あるいは河川・水辺など開けた環境に生育する種が多く含まれました。 2014年版で選定していたアレチギシギシ、ブタクサの2種は、特に生息数が多くないため、注意すべき生物から除外しました。

表 4-2 注意すべき生物(植物)の概要

■危惧される自然環境への影響

注意すべき生物(植物)による自然環境への影響は、在来植物群落の駆逐、生育場所をめぐる競争、 近縁な在来植物と外来植物との交雑などが挙げられます。

在来植物群落への影響の一例としては、オオハンゴンソウによる在来植物の駆逐が挙げられます。この植物は種子が多く生育も早いため大群落を形成し、様々な在来植物の生育域を縮小させます。安曇野市でも、この10年で分布を拡大しており、今後の動向に十分注意する必要があります。また、河川敷に侵入したシナダレスズメガヤは、カワラヨモギやコマツナギなどの在来植物と競合し、それらの在来植物を食草とするヨツボシアカツツハムシやミヤマシジミなどのレッドリスト種の昆虫にまで影響を及ぼしています。

在来のヤエムグラと競合する外来の近縁種シラホシムグラのように、在来種と置き換わりが懸念される植物もあります。このように注意すべき生物(植物)が多く生育するようになると、本来その地域に生育する植物の種構成が変わることになり、その場所を基盤としている動物の減少を引き起こすなど、その地域の生態系に悪影響をもたらします。

注意すべき生物として掲載した植物のほとんどは、山麓部・平野部の農地や住宅地、河川・水辺のような開けた環境や人の生活圏と重なる地域に生育する種です。普段から身近な自然に関心を持ち、新たに侵入した植物にいち早く気付くことや、衣服に付いた種子を無意識のうちに持ち運んでしまわないよう気を付けることが、地域の生態系を守ることに繋がります。

外来アゾラ類

Azolla spp.

アカウキクサ科

特定外来生物

緊急対策外来種



- ●特徴:約3cmの植物体になる浮遊性シダ植物。夏~秋にかけて植物体が紅色になります。特に夏、栄養繁殖が旺盛ですが、5~6月には胞子嚢をつける系統もいます。特定外来生物に指定されている Azolla cristata は、世界各地に分布します。
- ●生育環境:日当たりの良い浅い水面を好み、湖沼や水田、水路など に生育します。
- ●懸念される影響:水面を被うように繁茂するため、水面下の水生生物を被陰することによる影響が懸念されます。 また、水の富栄養化、近縁種との競合、交雑も懸念されます。
- ●市内の生育状況:明科の湧水が見られる水路に生育しています。

イタチハギ

Amorpha fruticosa

マメ科

重点対策外来種



- ●特徴:高さ1~4mの夏緑低木。幹は褐色、葉は互生し、6~12対の小葉からなる奇数羽状複葉です。茎頂に黒紫色の花序をつけます。花期は7~8月です。本来の分布域は、北アメリカです。
- ●**生育環境:**河原や堤防などに生育します。
- ●懸念される影響:生育環境をめぐって在来植物と競合します。また、 窒素固定能力があるため、土壌を富栄養化させて、周辺の植生を改変 してしまう可能性があります。
- ●市内の生育状況:市内各地に生育しています。特に河川敷や道路法面に多く見られます。

ナヨクサフジ

Vicia villosa

マメ科

産業管理外来種



- ●特徴: 高さ $60 \sim 100 \, \mathrm{cm}$ の一年草または越年草。葉は狭楕円形の小葉が、 $14 \sim 20$ 枚まばらにつく羽状複葉です。 $10 \sim 30$ 個の紫色の花が総状花序になります。本来の分布域は、ヨーロッパです。
- ●生育環境:道端や河川敷などに生育します。
- ●懸念される影響:生育環境をめぐる在来植物との競合が懸念されます。窒素固定能力があるため、土壌を富栄養化させて、周辺の植生を改変してしまう可能性があります。
- ●市内の生育状況:市内各地に分布します。特に河川の堤防や農地のまわりで多く見られます。

オオハンゴンソウ

Rudbeckia laciniata

キク科 特定外来生物 緊急対策外来種



- ●特徴:高さ約3mの多年草。根株から茎を叢生し、上部で分岐します。 花は直径約6cmで、黄緑色の筒状花と黄色の舌状花をつけます。花 期は7~10月です。本来の分布域は、北アメリカです。
- ●生育環境:草地や道端、河川敷などに生育します。
- ●懸念される影響:生育環境をめぐって在来植物と競合し、生息域を縮小させたり、数を減少させたりなどの影響を及ぼします。
- ●市内の生育状況: 穂高、堀金、三郷の山地帯の林道沿いに生育しています。

シナダレスズメガヤ

Eragrostis curvula

イネ科

重点対策外来種



- ●特徴:高さ $60 \sim 120\,\mathrm{cm}$ の多年草。幅 $1.5 \sim 2\,\mathrm{mm}$ の葉は垂れ下がり、冬でも枯れずに残ります。茎頂に円錐状の花序をつけ、やや紫色を帯びた小穂は扁平で $7 \sim 11$ 小花からなります。花期は $8 \sim 10$ 月です。本来の分布域は、南アフリカです。
- ●生育環境:荒れ地や路傍、堤防などに生育します。道路の法面の緑化に利用されることがあります。
- ●懸念される影響:河川の礫河原に侵入することで、河原固有の在来 植物と競合することが懸念されます。
- ●市内の生育状況:市内各地に生育しています。特に河川敷や道路法面に多く見られます。

オニウシノケグサ

Schedonorus phoenix

イネ科

その他の総合対策外来種



- ●特徴:高さ $50\sim200\,\mathrm{cm}$ の多年草。葉身は線形で幅 $5\sim12\,\mathrm{mm}$ です。茎頂に緑色〜紫色を帯びた円錐状の花序をつけ、小穂は楕円形で $3\sim10$ 小花からなり、 $1\sim4\,\mathrm{mm}$ の芒が出ます。花期は $6\sim8$ 月です。本来の分布域は、ヨーロッパです。
- ●生育環境: 荒れ地や路傍などに生育します。道路法面の緑化に利用されることがあります。
- ●懸念される影響:草原へ侵入することで、草原性の在来植物と競合することが影響が懸念されます。
- ●市内の生育状況:市内各地に生育しています。特に道路法面に多く見られます。

シラホシムグラ

Galium aparine

アカネ科



●特徴: つる状になる越年草。茎は断面が四角形で、6~8枚の葉が輪生します。在来のヤエムグラと比べて白い花と輪生葉上の白毛が目立ちます。花期は4~6月です。本来の分布域は、ヨーロッパです。

●**生育環境:**人家近くのやぶや荒れ地に生育します。

●懸念される影響:近縁な在来植物であるヤエムグラとの競合が懸念されます。

●市内の生育状況:市内各地に生育しています。特に河川敷や農耕地 周辺に多く見られます。

ハイウチワ

Opuntia spp.

サボテン科

重点対策外来種



●特徴:多肉植物。うちわ型の葉を持ち、鋭いトゲがあります。繁殖力が強く、鳥による種子散布の他、植物体の一部からでも増えます。また、耐寒性が高く冬でも枯死しません。本来の分布域は、アメリカです。

●生育環境:荒れ地や河川敷などに生育します。

●**懸念される影響:**生育環境をめぐる在来植物との競合が懸念されます。

●市内の生育状況:明科の堤防法面に生育しています。

コカナダモ

Elodea nuttallii

トチカガミ科

重点対策外来種



●特徴:長さ50~100cmの常緑の沈水植物。葉が3輪生で細かい鋸歯があります。雌雄異株で日本には雄株のみが帰化しています。葉腋に白い小さな花を1個つけ、親株から離れて水面で開花します。花期は5~9月です。本来の分布域は、北アメリカです。

●生育環境:湖沼、河川、水路に生育します。

●懸念される影響:在来の水草と競合することや、群生することによって水路の水流を阻害することが懸念されています。

●市内の生育状況:三川合流部の湧水路に生育しています。

■ 注意すべき生物 (動物) の概要

新しく注意すべき種として掲載した動物は 12 種で、全体では 38 種になりました。表 43 に種数・概要を示します。

今回の改訂作業では、新たに条件付き特定外来生物に指定されたアカミミガメや、市内への侵入が確認されたアカボシゴマダラを追加するとともに、今後侵入が危惧される特定外来生物などを追加しています。

特に昆虫類は、近年の温暖化に伴い、南方系の外来種も生息できる状況になってきており、街路 樹や果樹への被害が危惧されるクビアカツヤカミキリやツヤハダゴマダラカミキリなどの侵入につ いても注意が必要な状況です。

表 4-3 注意すべき生物(動物)の概要

分類群	種数		概要
刀块矸	2014	2024	似安
哺乳類	4	4	新たに追加された種はありませんでした。
鳥類	3	3	• 新たに追加された種はありませんでした。
爬虫類	0	1	• 河川・水辺に生息する条件付き特定外来生物のアカミミガメを追加しました。
両生類	1	1	• 新たに追加された種はありませんでした。
魚類	6	7	• 河川や水田に生息する外来種のカラドジョウを追加しました。
昆虫類	8	14	 追加した6種は、在来生物が1種、外来生物が5種でした。 在来種では、大量発生による樹木や農作物への被害が報告されたナナフシモドキが選定されました。 外来生物のうち、特定外来生物に指定されているのはアカボシゴマダラなど3種です。
その他 無脊椎 動物	4	8	追加した生物は、すべて国外から持ち込まれた外来生物です。特定外来生物のセアカゴケグモを追加しました。そのほかの追加種は河川・水辺に生息する種でした。
合計	26	38	_

■危惧される自然環境への影響

注意すべき生物(動物)による自然環境への影響は、在来種の捕食・採食、生息場所をめぐる競争、 近縁な在来種と外来種との交雑などが挙げられます。

捕食・採食による影響の代表例としては、ニホンジカの増加による在来植生の衰退が挙げられます。安曇野市でもこの10年で分布が拡大しているほか、植物に依存している他の動物への影響も懸念されます。このようなニホンジカの生息地拡大の背景には気候変動の影響も指摘されています。また、100年以上前に輸入木材に混じって上陸したマツノザイセンチュウによる「マツ枯れ」は、安曇野市でも東山を中心に甚大な被害を出しています。このように、寄主植物に大きな被害をもたらす昆虫類としては、カシノナガキクイムシ(ナラ枯れ)や、新たに掲載した外来種のクビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリ(街路樹・果樹)があります。これらの種は安曇野市への侵入は確認されていませんが、今後の侵入に十分注意する必要があります。

従来はペットとして親しまれてきたアカミミガメやアメリカザリガニも、捕食・採食によって自然環境に大きな影響を及ぼすことが分かってきた種です。また、新たに選定されたカラドジョウ、シナヌマエビも観賞用、産業用として持ち込まれたものが野外へ逸出し増えている種です。外来ウズムシ類(アメリカツノウズムシ、アメリカナミウズムシ)は、それらの移動に付随する形で国内に侵入したと考えられています。これらの水生生物は、近縁な在来生物との競争や交雑を通して在来生物との置き換わりが進んでいます。

外来種の持ち込みや気候変動による生物の分布域や生息環境の変化は、自然環境に大きな変化をもたらし、私たちの生活にも少なからぬ影響を与えることがあります。普段から身近な野生生物に関心を持ち、飼育している生物を野に放たないことが大切です。

市内への定着が危惧されるアライグマ

『安曇野市版レッドデータブック 2014』で注意すべき種として掲載していたものの、10年前は生息に関する情報は少なかったアライグマですが、今回の改訂作業のなかで、確認情報が2件集まり、今後の動向に注意が必要な状況が分かりました。

アライグマは、農作物などへの被害に加え、家屋の屋根裏や軒下などに侵入して、家屋への糞尿などによる被害を出してしまいます。また、在来の昆虫や両生類、鳥類などを捕食し、生態系への影響も大きな生物であるため、市内の分布状況の詳細把握や捕獲作業、空き家の管理など早期の対策が必要な状況です。



三郷で撮影されたアライグマ (2023年11月)



堀金で撮影されたアライグマ (2023年12月)

アカミミガメ

Trachemys scripta

カメ目 ヌマガメ科

条件付き特定外来生物

緊急対策外来種



- ●特徴:背高長20~28cm。背面は深緑色を基調に黄色と黒色の模様が入り、腹面は黄色で褐色斑が入ります。目の後方の斑は赤くなります。成長した雄は背面や目後方の斑が消失して黒化し、在来種との見分けが難しいですが、前脚の爪が細長く伸びます。本来の分布域はアメリカです。
- ●生育環境:池沼や河川などに生息します。
- ●懸念される影響:雑食性で水草から水生昆虫まで様々なものを採食するため、在来の水生生物への影響が懸念されます。
- ●市内の生育状況:市内の池や河川などに少数が生息しています。

カラドジョウ

Misgurnus dabryanus

コイ目 ドジョウ科

その他の総合対策外来種



- ●特徴:最大で全長約15cm。ドジョウと酷似しますが、口ひげが長く、 尾柄高が高いです。雑食性で、主に初夏に水路を遡上します。国内に は食用として移入されました。本来の分布域は中国や朝鮮半島です。
- ●生育環境:河川や水田とその周辺の水路などに生息します。
- ●懸念される影響:在来ドジョウとの競合、交雑が懸念されます。
- ●市内の生育状況:犀川の高瀬川合流部やわさび田の湧水池などで確認されています。

アオマツムシ

Truljalia hibinonis

バッタ目 コオロギ科



- ●特徴: 体長21 ~ 23 mm。成虫は鮮やかな緑色で若齢幼虫は茶褐色です。成虫は秋に出現し、日没直後にチリー・チリーと高く大きな声で鳴きます。明治時代に渡来したとされています。本来の分布域は中国です。
- ●生育環境:山麓部・平野部の林内に生息します。
- ●懸念される影響:大きな声で鳴くことから、在来の鳴く虫への影響が懸念されます。
- ●市内の生育状況:市内の平地に生息しています。近年、生息する地域が広がっていると考えられます。

ナナフシ目 ナナフシ科



- ●特徴:体長74~100mm。体は緑色または褐色で、細長い体形をしています。触覚は短いです。基本的に雌の単為生殖で増え、雄は非常に珍しいです。樹木などの葉を食べます。成虫は7~11月に出現します。在来種です。
- ●**生育環境:**山麓部・平野部の林内に生息します。
- ●懸念される影響:普段は大きな影響がありませんが、大発生した場合には、樹木や農作物を食べることによる被害や、人間の生活環境の悪化が懸念されます。
- ●市内の生育状況:2017年に明科で大発生がありました。その後、 穂高、三郷、豊科でも確認されており、分布が拡大しています。

クビアカツヤカミキリ

Aromia bungii

コウチュウ目 カミキリ科

特定外来生物

その他の総合対策外来種



- ●特徴: 体長25 \sim 40 mm。全体的に黒色で光沢があり、胸部のみ赤色です。成虫は6 \sim 8月に出現します。幼虫はバラ科の生木を食べ、2 \sim 3年で成虫になります。本来の分布域は、中国大陸や朝鮮半島です。
- ●生育環境:公園や市街地のサクラなどの街路樹周辺の他、モモなどの果樹園に生息します。
- ●懸念される影響:幼虫がサクラ、ウメ、モモなどの街路樹や果樹を食べることによって、それらの樹木が枯死することが懸念されます。
- ●市内の生育状況:現時点では確認されていません。長野県の他地域でも確認例はありませんが、隣接する群馬県などでは被害が報告されており、今後は分布が拡大する可能性があります。

ツヤハダゴマダラカミキリ

Anoplophora glabripennis

コウチュウ目 カミキリ科

特定外来生物



- ●特徴:体長20~35mm。体は全体的に光沢のある黒色で、前翅に多数の白斑が入ります。在来のゴマダラカミキリと比べて、前翅の付け根に細かい突起がなく滑らかで、小盾板に白斑がありません。成虫は5~10月に出現し、幼虫はニレ類やカエデ類などを食害します。本来の分布域は中国大陸や朝鮮半島です。
- ●生育環境:公園や市街地の様々な街路樹周辺に生息します。
- ●懸念される影響:幼虫が街路樹や公園樹木を食べることによって、 それらの樹木が枯死することが懸念されます。
- ●市内の生育状況:現時点では確認されていません。県内では東信地方で確認されており、今後は市内でも見つかる可能性があります。

ハチ目 ミツバチ科



- ●特徴: 体長20~28mm。全身が黒毛で覆われ、翅と共に鈍い青色の金属光沢を呈します。直径2~3cmの細長い竹に穴を空け、その中に花粉を運び込んで幼虫を育てます。本来の分布域は中国やインドです。
- ●生育環境: 里山や市街地の竹林に生息します。農作物の支柱の細長い竹も利用します。
- ●懸念される影響:攻撃性は高くありませんが、竹垣などに巣をつくるため、その手入れの際に刺される可能性があります。また、在来のクマバチと競合する可能性もあります。
- ●市内の生育状況:明科や豊科で確認されています。

アカボシゴマダラ

Hestina assimilis assimilis

チョウ目 タテハチョウ科

特定外来生物

重点対策外来種



- ●特徴: 開長62 ~ 70 mm。翅は黒地に白斑があり、夏型では後翅亜外縁に赤斑がありますが、春型ではほぼ消失して翅全体が著しく白化します。年3回程度発生し、5 ~ 10 月に出現します。幼虫はエノキの葉を食べます。本州に定着しているものは大陸亜種で、本来の分布域は中国、朝鮮半島、済州島、台湾です。
- ●生育環境:山麓部・平野部の樹林や、市街地にも生息します。
- ●**懸念される影響:**近縁の在来種であるゴマダラチョウとの競合が懸 念されます。
- ●市内の生育状況:長峰山山頂付近では、2022年に越冬幼虫と成虫が確認されており、すでに定着していると考えられます。2023年には堀金でも成虫が確認されています。

セアカゴケグモ

Latrodectus hasseltii

クモ目 ヒメグモ科

特定外来生物

重点対策外来種



- ●特徴: 体長は雄 $3 \sim 4 \,\mathrm{mm}$ 、雌 $12 \sim 15 \,\mathrm{mm}$ 。腹部は球形で背面に赤い模様があります。本来の分布域はオーストラリアです。
- ●生育環境:人の生活圏に適応し、建物の隙間や側溝などに生息します。
- ●懸念される影響:攻撃性は高くありませんが、毒をもっているため、 側溝の掃除や庭の手入れを行う際に咬傷被害が起こることが懸念され ます。
- ●市内の生育状況:現時点では確認されていません。県内での確認例が増加しており、今後は市内でも見つかる可能性があります。

シナヌマエビ

Neocaridina davidi

エビ目 ヌマエビ科



- ●特徴: 体長3cm。観賞用に輸入されたエビの仲間です。体色は個体によって様々です。本来の分布域は中国です。
- ●**生育環境:**流れの緩い川や池の水草が多い場所に生息します。
- ●懸念される影響:在来ヌマエビとの交雑、餌や空間をめぐる競合が 懸念されます。
- ●市内の生育状況:犀川流域で確認されています。

アメリカツノウズムシ

Girardia dorotocephala

ウズムシ目 サンカクアタマウズムシ科



- ●特徴: 体長10~20mm。頭部は正三角形に近く、耳葉が長く尖っていることが特徴です。本来の分布域は北アメリカです。
- ●生育環境:河川、水路に生育します。在来のウズムシ類より水質の 悪い場所でも生息できます。
- ●懸念される影響:在来のウズムシ類との競合が懸念されます。
- ●市内の生育状況:犀川流域で確認されています。

アメリカナミウズムシ

Girardia tigrina

ウズムシ目 サンカクアタマウズムシ科



- ●特徴: 体長10~20mm。在来のナミウズムシに似ていますが、体表に細かい色素斑があるのが特徴です。本来の分布域は北アメリカです。
- ●生育環境:河川、水路に生育します。在来のウズムシ類より水質の 悪い場所でも生息できます。
- ●懸念される影響:在来のウズムシ類との競合が懸念されます。
- ●市内の生育状況:犀川流域で確認されています。